



ましみずの里

天童市立高揃小学校
学校だより No.12
令和6年3月18日
校長 齊藤厚志

進級・卒業おめでとうございます！ ～1年間本当にありがとうございました～



先週金曜日の卒業証書授与式を無事終えて、春休みに入りました。保護者の皆様には、この1年間本当にお世話になりました。感謝申し上げます。私事ですが、2月24日から3月13日まで急遽入院せざるを得なくなり、年度末の大切な教育活動に参加できなかつたり、たかだまニュースの配信が滞ったり（大きな行事については教頭が配信）するなど、大変ご迷惑をおかけしました。ただ、3月14日の修了式で

は、各学年代表に修了証を、翌日の卒業式においても、卒業生39名一人一人に卒業証書を手渡すことができました。そのことに喜びと安堵の気持ちを抱いております。進級・卒業した子供たちが、来年度新しい場所でさらにいのちを輝かせることができるよう、引き続き、学校、家庭、地域が連携・協働して、子供たちを愛し、支えてまいりましょう。どうぞよろしく願いいたします。



令和5年度 卒業証書授与式 校長式辞



弥生の空から体育館に差し込む光が、とてもやわらかく優しく感じられる今日、天童市教育委員会教育長相澤一彦様、PTA会長大内啓司様をはじめ、ここ高揃の地で本校を多角的な面から温かく支えてくださっている地域の皆様のご臨席のもと、久しぶりに全校児童が参加しての卒業証書授与式を開催できますこと、心よりうれしく思います。

卒業生のみなさん、卒業おめでとう。そして、ありがとう。私がみなさんと学校生活を共にしたのは、たった1年間だけでしたが、この「ありがとう」には、時間の長さには比例しない、私の様々な思いが込められています。そのたくさんの思いの中から、今日は3つだけお話し、みなさんへの感謝の気持ちを表すとともに、ささやかながら、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

1つ目の「ありがとう」は、私の退院を、本日の卒業式に間に合わせてくれたことへの感謝です。昨日の修了式でも触れましたが、先々週突然入院せざるを得なくなり、医師には最低でも四週間の入院が必要だと言われたにも関わらず、なんとか奇跡的に二週間ちょっとで退院することができました。医師も大変驚いていました。私の「なんとか修了式・卒業式に出たい」という強い気持ちも大事だったとは思いますが、みなさんにいただいた、この寄せ書き



も、私の大きな力になりました。寄せ書きには、「早く体調が回復することを願っています。」
「一緒に卒業式に出て、校長先生から卒業証書をお願いしたいです。」など、みなさん一人一人からの心のこもった温かいメッセージが、丁寧な文字で書かれていました。「言葉」は言葉霊と言われます。病室で、みなさんの気持ちを「言葉」を通して感じ取ることができ、それが私の退院を早めてくれたと、私は本気で思っています。ありがとう。これからも「言葉」というものを、自分のため、人のため、大切に使ってください。



2つ目の「ありがとう」は、多様性を認め合うことの大切さを再認識させてくれたことへの感謝です。私は、6年生全体の雰囲気がとても好きでした。山崎先生、早希先生、明日先生を含めた6年生全体の雰囲気が。多様な個性が集まり、多様な考えを述べ合っても、互いを否定せず受け入れながら、対話を重ねている姿。安心して自分の考えや気持ちを言える環境というのは、なかなか創れるものではありません。そのような環境だからこそ、みんなが様々な考えを出し合い、その中で最適解を探りながら、何事にも前向きに取り組み、成果を上げてきたんだなあと思います。そのことが、互いへの信頼にも繋がっている。そのような姿から、一人の人間として大切にすべきことを、改めて学ばせていただきました。ありがとう。今後の学校づくりにも生かしていきます。

最後、3つ目の「ありがとう」は、学校を支えてくれたことへの感謝です。高揃小学校は今年度、創立150周年を迎えました。記念すべき節目の年度です。その年度を下級生をリードし、大変充実した時間にしてくれました。児童会目標「レインボー～太陽・協力・チャレンジ～」のもと、様々な行事や活動において、その中心となって活躍したのはもちろんのこと、自分たちの生活を見つめ、課題を設定し、手立てを丁寧に考え、解決に向けて、全校児童を巻き込んで取り組んでくれました。児童一人一人の声を大切にしながらも、時にはダメなことはダメと厳しく対応する姿に、私は逆に温かさを感じました。自分のことだけでなく、高揃小全体、そして一人一人のことを本気で考えての判断・実行だったと思います。これまで本当にありがとう。そのような学校への尊く熱き思いは、5年生が必ずや引き継いでくれると私は信じています。



さて、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。冒頭でも触れましたが、突然の入院という状況の中、卒業式に何とか間に合い、先ほど一人一人に卒業証書を手渡すことができたことを、本当にうれしく思います。小学校に入学してからの6年間、様々なことがあったかと思えます。楽しいことだけでなく、時には、子育てに悩んだり苦しんだりしたこともあったのではないのでしょうか。そのようなことを乗り越え、今日を迎えることができました。これも、みなさんのお子様への深い愛情があったからこそと思います。これからも、子供たちのよき手本となり、子供たちを愛し、支え続けてください。



最後になりますが、新たな世界に飛び立つ子供たちが、これからも挑戦する勇気を持ちつづけ、自分の人生を自分自身で創り上げる力をさらに身に付けられますよう、心から願い、卒業生に対する、感謝、そして、お祝いの言葉といたします。